

石田市長（中央）に表彰を報告した大館桂桜高の生徒たち



## 認知症サポーター活動 全国コンテスト

# オレンジカフェに優秀賞

大館桂桜高校の生活科学科福祉コースの3年生が、認知症患者やその家族らの孤立感、不安の軽減を目指して定期的に開いている「桂桜オレンジカフェ」の活動が、認知症サポーターの育成活動を行う全国キャラバン・メイト連絡協議会（東京）のコンテストで優秀賞に選ばれた。

カフェは2カ月に1回程度のペースで、昨年9月から開いている。生徒

が市の認知症サポーター養成講座を受講し、市の認知症カフェ「つながる」でボランティア活動した経験などから、自分たちでもカフェの運営を始めた。

本年度は3年生7人で運営。料金は200円で、誰でも参加できる。コーヒーや紅茶などの飲み物に加え、同校食物部などの生徒が手作りの菓子などを提供。毎回改善点を生徒間で共有し、認知

症患者らの過ごしやすさにこだわっている。

コンテストは、協議会が小学生から高校生までの「キッズサポーター」を対象に、認知症への理解をテーマとした文芸作品と自由作品を募集したもの。本年度は全国から56点が集まり、うち6作品を最優秀賞や優秀賞に選んだ。大館桂桜高は自由作品部門の高校生部に活動報告書を応募し、生徒が主体的に企画、運営している点が評価された。

生徒らは10月30日に市

## 桂桜高3年生が定期開催

役所を訪問し、石田健佑市長に受賞を報告。石田市長は「当事者が社会や若い世代と接点を持つことはとても大切。社会的にも意義のある素晴らしい取り組みだ」とたたえた。

店長を務める櫻庭海咲さんは「当事者との関わりを通して、認知症は誰でもなり得る病気だ、早い段階から知っておけば怖いものではないと気付いた。表彰をきっかけに一人でも多くの人にオレンジカフェを知ってもらい、認知症への理解が深まればうれしい」と話した。

次回のカフェは12月12日午後1時半～3時、同校オレンジルームで開催する。来年2月からは、2年生が中心となって運営を担う。（伊藤康仁）